

教育文化センター プラネタリウム通信

No.50 記念特別号

50号までのあゆみ

「教育文化センター プラネタリウム通信」は2013年7月から始まりました。途中で名前を「ほしみる」に変え、毎月欠かさず発行し続け、ついに50号目となります。

そこで、今回はこれまでの掲載内容を、その年の主な天文イベントや教育文化センターの活動の歩みとともに、50号を記念して振り返りたいと思います。()内の数字は日付です。

上部のタイトルは、No.1~10まで使われていたものです。No.11で正式名称が「ほしみる」に決定してからのタイトルは、2代目となります。

2013年 No.1~6

- No.1 「教育文化センター プラネタリウム通信」
発行開始(7/2)
- No.2 ペルセウス座流星群が好条件(8/13)
- No.3 学びの9月特別講演会
「不思議な宇宙と私たち」(9/21)
日本の宇宙企画展(9/14~29)
- No.5 アイソン彗星が近日点を通過(11/29)

★2013年は、上半期の「パンスターズ彗星」、下半期の「アイソン彗星」など、大型彗星の観測が期待されていました。特にアイソン彗星は歴史的な大彗星になることを期待されていましたが、残念ながら太陽に近づいた後に消滅してしまいました。

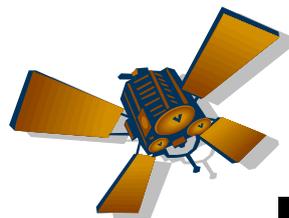


2014年 No.7~18

- No.7 しぶんぎ座流星群が好条件(1/4)
- No.9 可視光通信実験衛星 ShindaiSat「ぎんれい」
が打ち上げられる(2/28)
- No.10 火星が地球に最接近(4/14)
- No.11 正式名称が「ほしみる」に決定する(4/29)
- No.15 学びの9月特別講演会
「信州から宇宙へ～信州製人工衛星『ぎんれい』
の開発から小惑星の発見まで～」(9/23)
JAXA 宇宙企画展
～日本の人工衛星～(9/13~28)
- No.16 皆既月食(10/8)

★2014年は、「はやぶさ2」を中心に、探査機や実験衛星の打ち上げが大きく取り上げられました。「ぎんれい」は、信州大学が中心となり開発を進めた人工衛星です。

★この年最大の天文イベントは、10月の「皆既月食」です。月全体が地球の影に入り込み、赤銅色に染まる姿を1時間ほど観察できました。



2015年 No.19~30

- No.22 **皆既月食**(4/4)
- No.26 **ペルセウス座流星群が好条件**(8/13)
- No.27 **学びの9月特別講演会**
「宇宙生命は存在するか
～天文学からのアプローチ～」(9/27)
宇宙企画展(9/27)
- No.28 **金星が最大光度**(9/22)
- No.30 「はやぶさ2」が地球とスイングバイ(12/3)
ふたご座流星群が好条件(12/14)



2016年 No.31~42

- No.31 **金星探査機「あかつき」が**
金星軌道への再投入に成功(2015年12/7)
- No.33 **部分日食**(3/9)
- No.35 **火星が地球に最接近**(5/31)
- No.38 **ペルセウス座流星群が好条件**(8/12)
- No.39 **特別講演会**
「ハワイから宇宙の謎に挑む
～すばる望遠鏡と超大型望遠鏡
TMT(30メートル望遠鏡)～」(10/2)
宇宙企画展
「CDで分光器をつくって、
いろいろな虹を見よう」(10/2)
- No.41 **アルデバラン食**(11/16)



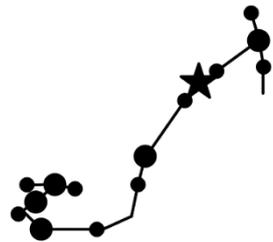
2017年 No.43~50

- No.43 **しぶんぎ座流星群が好条件**(1/3)
アルデバラン食(1/9)
- No.46 **水星が東方最大離角**(4/1)
アルデバラン食(4/1)
- No.48 **土星が衝(環の傾きがほぼ最大)**(6/15)
- No.49 **水星食**(7/25)
JAXA・国立天文台見学ツアー(8/18 予定)
- No.50 **ほしみる50号発行**(7/29)、**部分月食**(8/8)

- ★2015年も皆既月食がありましたが、約12分というとても短い月食でした。
- ★この年の宇宙企画展では、当センター初の移動プラネタリウムに挑戦しました。
- ★「はやぶさ2」は、地球とのスイングバイ(重力による加速・方向転換)後、小惑星リュウグウへと向かい、2018年夏にリュウグウへ到着予定です。



- ★2010年に打ち上げられた「あかつき」は、金星の周回軌道への投入に失敗し、太陽の周りを約5年間回り続けました。そして、2015年に再投入を試み成功しました。
- ★火星が地球に最接近し、地球からは側にあったアンタレス(さそり座の1等星)とともに、赤い星が2つ美しく輝いて見えました。
- ★11月に発生したアルデバラン(おうし座の1等星)食は、2017年にも何回か発生し、以降は2034年まで見られなくなります。



- ★2017年最大の天文イベントは、8/8の部分月食です。
- ★水星が月に隠される水星食も、珍しい現象です。
- ★今年は30年ぶりに、土星の北極側から見た環の傾きが最大になります。もっとも傾きが大きくなるのは10月ごろです。



次の目標は100号…?